

第2回 武蔵野市立武蔵野公会堂の改修等に関する有識者会議 議事要旨

- | | |
|-------|---|
| ・日時 | 令和4年7月22日（木曜日） 午後6時30分～8時30分 |
| ・場所 | 武蔵野公会堂第1・2会議室 |
| ・出席委員 | 小林委員、吉川委員、青木委員、花柳委員、町田委員、
和久津委員、毛利委員（名簿順） ※吉本委員は欠席 |
| ・事務局 | 総合政策部資産活用課長、市民部市民活動推進課長 他3名 |
| ・傍聴者 | 6名 |

1 開会

座長から吉本委員の欠席の連絡後、事務局から新規出席者の紹介、配布資料の確認が行われた。

2 議事

(1) 施設の現状と課題について

【座長】事務局より資料の説明をお願いしたい。

【事務局】（資料1、資料2に基づき説明）資料2の表に基づいて説明する内容が、資料1に写真と図面で表現されている。ホール棟（楽屋エリア、舞台エリア、客席エリア、その他）、会議室棟、その他、共用部に関する現状と課題、対処方針を説明する。

今後の検討にあたってのポイントとしては、ホール棟では「楽屋エリアと舞台エリアの明確化」「出演者用の裏動線の確保」「楽屋数の拡充」「搬入口の高低差の解消」「技術諸室の必要な機能」が挙げられる。会議室棟では、「会議室の部屋数や面積」「各室の機能の集約や共有」が挙げられる。共用部では、「備蓄倉庫機能の必要面積」が挙げられる。

（前回会議資料7に基づいて説明）利用状況については、平成30年度でホールの利用率は約74%。市内の類似施設である武蔵野芸能劇場「小劇場」や武蔵野スイングホール「イベントホール」も70%程度、武蔵野プレイス「フォーラム」は61%の利用率となっている。このことから、武蔵野公会堂は老朽化こそ進んでいるものの、利用状況は良好な施設であると認識している。

会議室と和室は、会議や控室のための利用が大半を占めている。会議室の利用率は平成30年度で約60%だが、武蔵境駅前の武蔵野スイングホール「スカイルーム」や、三鷹駅前のかたらいの道市民スペースも50%～60%台で、いずれも同等程度の利用率であると言える。和室は平成30年度45.9%だが、市民文化会館和室と同等程度である。

【座長】議事1では、包括的に現状と課題と対処方針の例が整理された。前回の見学や普段の利用を踏まえて、今の説明で不足している現状と課題があればご意見をいただきたい。また、対処方法の例についても、他に案があれば発言いただきたい。

では最初に座長より事務局に質問だが、ホールの音が漏れるというのは、天井ではなく南北方面への側面からの音漏れということか。

【事務局】側面と天井の両方からである。

【A委員】トイレについて、会議室棟のトイレだけでなく、ホール棟の観客用トイレについても、トイレまでの動線や、全体的につくりが小さいという課題がある。

【座長】機械室の中の設備を出せないという話があったが、機械室は階段でしかアクセスできないのか。

【事務局】そのとおりである。

【座長】緑化で300㎡必要というのは、武蔵野市の条例での規定なのか。

【事務局】東京都「東京における自然の保護と回復に関する条例」と武蔵野市「武蔵野市まちづくり条例」での規定である。公共施設は基準が厳しく、建て替えた後の規模にもよるが、現在の想定ではその程度必要という認識である。

【副座長】今の施設は課題が山積みで、これをただ改修すれば良いというものではない。課題を踏まえての今後の展開が重要だ。

【B委員】ホール棟に関しては仰る通りで、課題点は網羅されている。乱暴な言い方だが、既存の建物を骨組みだけ残して回収した場合、どこまで20年後に耐え得る設備にできるかが心配。

【C委員】ホール棟と会議室棟の2つの役割を持っている公会堂なので、それぞれ別の議論をしないといけない。ホールに何を求めるか、会議室に何を求めるか。例えばホールはイベントホールなのか音楽ホールなのか。前回の傍聴者意見では、ホールに対しかなり希望に満ちた要求を出されているが、それに応えられるものにするのか。基本的にユニバーサルデザインは前提だが、あくまでホールと会議室が複合するという前提もあるため、分けて考えるべきだろう。

【D委員】ホール棟の利用者として発言する。知人にピアノ講師がいるが、武蔵野公会堂のホールは便利なものの楽器の音響がいまいちという話を聞く。私も毎年2～3回利用しており、要望は沢山あるが、改修か全面改築かで今後の発言内容が変わる。

【座長】もしも無条件に理想を言うならば、特に問題になると思っていることはあるか。

【D委員】まずエレベーターが無いことが実際に困っている問題。高齢者が団体のメンバーに多く、階段で介助をしている。楽屋から舞台の動線も大きな問題。演奏家と一緒にやることが多いが、楽器の響きは観客へ直接的に伝わるため考慮してほしい。舞台袖はピアノが無くなったとしても狭い。楽器が大きく転倒する危険があるため、大道具等が出しやすいようなスペースや設備が充実すれば利用者は増えるだろう。また、客席については、車いす利用者からホールへの出入り扉が急に閉まり危険なため、気軽に出入りできないという声を聞く。

【E委員】私はプロポーザル等で計画に設計者として携わることが多いが、図面を見たところ、客席を若干減らすことでかなりの問題が解決するだろう。会議室棟のエレベーター設置と階段踊り場のトイレについても、階段室や和室をうまく利用することで解決できるのではないか。

機械室は地下で良いのか、という問題もある。重量の問題もあるが、会議室棟は施設

の形状が長方形でバランスが良いため、耐力的にはそれほど悪くはない。機械室を屋上に移動してはどうか。

築年数が50～60年の近代建築はほとんど解体の瀬戸際にある。例えば100年後にこの建物がどのような評価を受けるか等、長いスパンで検討してはどうか。また、この建物は地元の方から愛されているかどうかが一番重要だと思う。愛されていないのであれば良いが、愛されているならば歴史の継承という意味でも全力で守るべきだろう。これまで自分が設計した建物は、経済的な理由と、建物を愛している人が多いために依頼を受けることが多かった。

【座長】会議室棟は、構造的には2つの階段室が支えているという設計なのか。

【E委員】構造型式としては、階段室とラーメン構造で支えていると思われ、ゆえに安定している。塔屋は解体で良いと考えられる。軽量化も可能であろう。利用率を見ると、減築案は問題があるのではないかと思う。

【座長】それでは、2つの階段室の片方を解体するというのは考えにくいか。

【E委員】構造的にというよりも、1つよりも2つあったほうがよいのではないか。折り返しの階段なので、一方通行とすれば色々な問題が解決するのではないか。

【座長】事務局には、今お話をいただいた内容を資料に追加してほしい。

(2)改善案（改修等の基本方針）について

【座長】事務局より資料説明をお願いしたい。

【事務局】（資料3に基づき説明）前回有識者会議では駆け足で説明した内容になるが、改修や建て替えの方針について、昨年度の検討結果の報告書をコンパクトにまとめた。3つの基本的な考え方と、改善案Ⅰ～Ⅲの特徴を確認するが、両方ともあくまで行政側の案であり、これから変更していく可能性はあるので、現時点での考え方をご承知いただきたい。

まず基本的な考え方について、1つ目が、「だれもが安全で安心して利用できる施設」、2つ目が「まちとのつながりを持ち愛着を持たれる施設」、3つ目が「費用対効果の高い経済性に優れた施設」。

次に3つの改善案について、改善案Ⅰ・Ⅱが改修、改善案Ⅲが完全に建て替える案である。改善案Ⅰ・Ⅱにかかる大まかな費用は14億円程度、改善案Ⅲは26億円程度である。今日の会議で結論を出す必要は無いが、今後の検討にあたって疑問点やご意見をお聞かせ願いたい。

【座長】意見交換の前に、先ほど各委員が発言された内容について確認したい。ホールとしては音楽が半分強で、レクチャーが2～3割程度の利用率。音楽利用には音響環境が十分ではないがレクチャーではその点は問題にならない。立地はいずれにせよ良いということだが、市としては今後20年間も同じような利用を見込んでいるのか。

また、会議室については、一部ホールの控室として、特に和室は着替えとして利用されているということは否定できないということか。

【事務局】ホールの音響や諸設備が改善されれば、音楽関係の利用が増加することは予

想できるが、音楽関係以外の講演会等の利用ニーズも引き続き残ると考える。会議室・和室が控室として利用されている現状から、控室や楽屋の改善・確保は必要と考える。

【座長】和室で着替えて階段を降りホールへ行っているということだろう。和室が和室として、お茶等の利用で使われることは数こそ少ないものの若干はあり、一方で、他の部屋が予約できなかつたために利用しているというパターンも多いのだろう。こうした傾向は多摩市で調査した際も同じような結果だった。会議室は控室利用もあるだろうが、ホールとは別の利用がされているという理解で間違いないか。また、このような集会機能も今後20年間持ち続けなければならないと市としては考えているのか。

これらが委員の発言の根底にある考え方で、会議室の利用率の高さとボリューム縮減への懸念を解決するために、まず整理が必要ではないか。市としては、現状の機能は保持するという方針なのか。これらの大きな考え方について、武蔵野市の施策にこれまでも関係されていた副座長と事務局に確認したい。

【事務局】会議室については、会議室機能を持った周辺の公共施設や民間施設との役割分担を加味しなければならないと考えている。公共施設では、コミュニティセンターが近隣に3施設あるが、いずれも小規模な会議室であり基本的には市民利用であることから、今の武蔵野公会堂を利用している層とはズレもあるだろうと考えられる。北側にある武蔵野商工会館「ゼロワンホール」の利用者層とは重複するかもしれない。棲み分けの検証とともに、会議室の数が今の数だけ必要かということはよく考えなければならないが、イベントなどでホールと一体で使うことのできる会議室機能は必要になるだろうと考えられる。

【副座長】これまで関わってきた中で、現状を追認していくことについては個人的にはどうかと思っている。先日、講演で行ったある県の文化会館は竣工から50年以上経過していたものの、その日は沢山若者が来館していた。ちょうど講演が始まる頃に、リハーサル室から大きな音が聞こえており、軽音楽での利用がされているようだった。その音量は講演が成立しないほどだったが、それに対して利用を断るのは違うだろう。

そもそも「公会堂」というものは、実演芸術や舞台芸術のために作られたものではないにもかかわらず、無理やりピアノを設置して利用している。今のニーズを考慮して、それらを踏まえた改修の方が良いのではないかと個人的には思う。

公共施設の更新の際に、今の人たちのニーズだけで考えてはいけないと思っている。少子高齢化が進んでいる中で、基本的には縮小再生産的な発想になるのではないか。今の文化政策的な課題を解決していくために施設の整備や更新をするという発想が大事なのではないか。武蔵野市は早い段階で文化施設整備を始めて、そのことで文化施設を使う人たちを育成してきたと言えるだろうが、それぞれの人にただ使ってもらおうとか、その人たちの意見を聞くだけで良いのかという気がしている。もちろん、今まで利用してきた人たちに対しても、バリアフリーなどのように安心・安全を確保するための改修というものは不可欠だが、暫定利用であれば改修は最小限にしても良いのではないか。矛盾するようだが、先ほどの軽音楽の話のように、それ相応のコストをかけるのであればコスト的な妥当性も重要であるし、それまででないものを整備して使う人を増

やす、そういう人たちを育てるという発想も重要ではないかと思っている。よって、全面的に建て替えて新しい文化施設のあり方を模索してもいいのではないかという気がしている。

一つ聞きたいが、ランニングコストは、使用料収入を前提としているのか。良い施設が整備されればその分利用され、収入が入ってくる。その分はランニングコストから差し引かれているのか。現状維持であれば料金を上げることは考えられないが、改修費用をかけて改修した場合、料金を上げても借りる人はいるだろう。

会議や就職説明会は多目的ホールである市民文化会館を利用すればよいので、公会堂は来街者向けに特化することもできるだろう。ただ、20年しか使わないという点をどう考えるか。これまでの議論でいくと現状追認型になるが、それだとコストをかけてやる必要があるのかどうか疑問である。

【事務局】ランニングコストについては、資料7の表に「経済性」という行があり、そこに概算を示している。これはあくまで維持修繕にかかる費用であり、利用者収入は見込んでいない。なお、現状の武蔵野公会堂の使用料収入はコロナ禍前で年間2,000万円程度であったため、使用料を改訂して利用料が増える可能性は確かにある。

【座長】先ほどの問題提起は奥が深く、中々決めきことは難しいが、今の話を踏まえると、ここでしかできないことはあるだろうし、他でできないことができるというのはその通りである。

会議室についても、特殊な用途の会議が行われているものの、商工会館とは用途が被っているかもしれないということだ。会議については武蔵野公会堂では優先度が下がるかもしれないということか。また、ホールと組んでいてよかったということ、リハーサルや練習利用でも音が出せるとありがたいという意見が出ている。音の出せる施設はコミュニティセンターにはあるが、公会堂とコミュニティセンターを連携利用するというのは考えにくいだろう。元々公会堂は、たった一つしかない集会場で「そこでなんでもやろう」という戦後の日本の考え方の元で整備や利用がされてきたが、今の状態では、この施設に求められているものは選ばれてきている。決めきことは難しいが、今後の検討にあたって頭に入れておきたい。

【B委員】10年～20年前、石原都知事が日本のアニメーションを推進している時代に、実行委員会側でスタジオジブリと武蔵野公会堂を利用した。ここしかなかった時代が長かったが、現状ではものすごく防音性や機能に特化した施設として吉祥寺シアターができ、また武蔵野商工会館ができて、会議室機能でも充実している。それぞれ特化した施設がそれぞれにある。パークエリアにある施設として、これからの20年間、文化を発信しながら新しい世代の人たちを吸い寄せるようなことをやっていく場所にしていくと考えたと、会議室棟を増改築するのであれば、ホールはシアター系の機能を充実し、配信等の新しい技術を使って発信していくような、20年先までカルチャーに対応できるような先進的なものを盛り込む方向にシフトし、ある部分は新しく増改築する会議室棟でカバーするような方針を、Ⅱ案でどこまでできるか検討すれば、まちの活性化の方向性には合うのではないかと個人的には思っている。

【座長】20年間使うのであれば最先端のことをできるように、と言う話はあると思う。

【A委員】追認前提ではないという考え方が改めて確認されたところだと思う。かつては、ホールで講演会を行い、会議室で分科会を行うような、社会教育的な使い方で行われていた時代が長くあった。そこから、そういう活動自体も変わってきているが、例えば医師会のフォーラムでは聴講者が多く、2階、3階をサテライト会場とするような利用がある。ホールは音が出せるようにすべきだが、どこまで音楽に特化させるべきなのかというのは検討が必要。また、今年度も市の事業の講演会でホールの利用が予定されているが、2階の和室を控室にした時のセキュリティ面に懸念があり、解決しなければならぬと考えている。

できるだけコストを抑えながら変化をアピールできるような改修が望ましいだろうし、それが目に見えそうなのはⅡ案だが、他の案についてもこの場で今後議論し、一番良い案としていきたい。

【C委員】ホールと会議室を持つ宿泊研修型の民間施設で働いていたが、建て直す際に、全く同じ機能で建て直すというのはニーズに合わないため、削る部分と特化する部分を議論した。その際、会議室がどう多目的に使えるか、グループサイズは小さくしてもよいのではないかと議論をした。大胆なことを言うと、いずれ市民文化会館も建て替えになるだろうし、これからの20年間で、公会堂でそれに備えた実験ができないか。舞台の袖と搬入の動線の確保は必須で、舞台を前に出して袖を広げることで客席数が減ることは仕方ないし、楽屋は防音機能のある楽屋兼会議室となると、グループサイズの小さいものをいくつかつくるような検討になるだろう。最も大変なのはホールの防音工事ではないか。また、これから若い人が実験的な表現をしようとしたときに、最新の音響、照明、デジタル機器が入っていないと話にならない。一定程度お金をかけるのであれば、新たに次の文化施設をつくるための実験の場という意味が付加されるとやりやすいのではないだろうか。文化的な複合施設というよりも、どちらかというホールを重視しながら会議もできるというくらいのことではないか。

【座長】今の話は、今後の20年を見据えて実験的にやるべきということと、取捨選択をすべきなのではないかということによろしいか。

【D委員】公会堂を利用する際、費用の面もあってリハーサルはコミュニティセンターを使うことがよくある。演奏をする場合、一部のコミュニティセンター以外は楽器が禁止であったり制限があったりするので、防音は大変重要。市民文化会館も防音の問題があり、2つのホールの同時利用ができない状態。会議室を楽屋にする可能性があるのであれば防音は必須である。

音響設備については、CDが本番中に飛んだことがある。音で芸をする立場としては、音のトラブルは致命傷。プロであればまだ良いが、子供にとっては嫌な思い出になってしまうので、音にはこだわってほしい。

【E委員】建物が愛されているかが重要と話したが、屋根の形状が特徴という話が印象的。Ⅱ案では外観が見えなくなる。建て替えの場合、耐用年数的には20年以上利用でき

るので、20年～30年限定の建物にこれだけ大きな費用をかけることは疑問。防音や機能について断言はできないが、改修でも80～90%で合格点がもらえるのではないかと。

【座長】地下の機械室は全て設備を撤去して防音室として使えるようにできたら良さそう。ホールがあるのであれば、音の出せる控室が設けられるべきで、会議の場もまた必要ということだが、音の面をしっかりとできれば、会議機能は包摂できるのではないかと。傍聴意見にも、会議室は可動間仕切りで仕切るとマイクは使えないという話がある。多摩市の調査でも、結局2部屋まとめて貸しているという話もある。昔、武蔵野公会堂が竣工したときには音が漏れても良かったのだろうが、今は違う。会議室利用もある程度考慮する必要がある。

皆さんの意見を聞いていると、会議室棟はホールあつての、という話が出ている。

ホールに投資し、それに対して活かせるようなミーティングスペースや控室やスタジオを付随させると良く、それを実現するにはどの案か、という検討が必要だろう。

都市計画的な観点からは、来街者にとっての広場的な機能について話したい。傍聴意見にも、「周りのことを考えてほしい」とあったが、20年で次の改修が来るかもしれないとなると、限定された時間の中でこの場所がどのような場所となるべきかを考えなければならない。都市計画の観点からは、ここに集える場所があるというのがベターである。全ての機能を限定された予算と土地で果たせるかが難しいので、どの機能がここで求められているか、強弱をつけなければならない。現時点での議論ではホール機能は重視すべきという話かと思うが、来街者が集う機能についてはどうだろうか。

【副座長】防音設備を備えたスタジオを作れば、十分会議室対応はできる。防音が整っているからこそ会議ができるという施設は沢山ある。会議室に代替することを心配する必要は無い。ホールも同じで、防音のしっかりしているホールができれば安心して講演会や集会ができる。どちらかではなく、防音をしっかりするという方向性を明確にした方が良いでしょう。

来街者の件はずっと考えている。武蔵野公会堂の屋根はそれほど特別なものなのだろうか。ホールの上をリハーサル室にして、今会議室棟のある場所を緑化するという方針もあるのではないかと。Ⅲ案にしても、都市計画上はもっと高い建物でも可能なのではないかと。そうすれば、広場的な機能を持たせることも可能ではないかと。

会議室棟についても、子ども達の新しい創造性を喚起するような施設とできないか。例えば、デジタルなもので作品を作ることを支援してくれるような場所。ただ箱を作るのではなく、そこにどのような機能を持たせるのかを、会議室棟についても考えるべき。

【事務局】都市計画的には高さは問題無いが、周辺理解も大切になる。

【E委員】屋根の上に増築するのは、基礎の耐力が持たないだろう。上に木造を乗せるのであれば可能だろうが、ホールをまたぐような構造体を作らなければならないため、そこに費用がかかるだろう。

【座長】会議室棟の上はどうか。

【E委員】そちらの方が難しい。構造躯体を乗せるとなると、難度が高い。柱や梁の長期荷重を考えると、柱に鉄板を巻く等必要になるだろう。

【事務局】補足だが、武蔵野公会堂は昭和36年より前に建てられているため、旧耐震と呼ばれる昭和56年よりさらに前の基準で建てられており、例えば鉄筋に丸鋼が使われている。一方、コンクリートの強度を調査したところ、会議室棟については想定通りだったが、ホール棟は極めて高く、非常に良い施工がされていたため、ホール棟は延命できると判断した。上に乗せる増築は、建築基準法の構造上、今の法律が適用されるため、課題が残る。既存の躯体に構造的に力を加えないように、またがるようなフレームを建ててその上に乗せ、構造上別のものとするといった考え方はあろうが、技術的、費用的に現実的でない。

【副座長】まちに開くことを考えると、会議室棟部分に何も無い方がよいだろうという意図での発言だった。

【E委員】旧耐震の場合であっても、耐震の評定を取ればできることはある。実績はある。

【座長】議事2では、重要なキーワードが出された。事務局と整理する。

3 事務連絡

【座長】最後に事務局から事務連絡をお願いしたい。

【事務局】（資料4、資料5に基づいて説明）8月末から市民ワークショップを実施する予定。3回をワンセットとして、30名程度を対象として予定している。8月1日の市報までに確定し、案内する。市民ワークショップの結果はニュースレターを発行する予定。

次回の第3回有識者会議は8月24日に公会堂で開催予定。

4 閉会

【座長】これにて第2回武蔵野市立武蔵野公会堂の改修等に関する有識者会議を閉会する。